

平成29年度福岡市民芸術祭参加事業・「九州・沖縄から文化力プロジェクト」参加事業

筑前琵琶保存会 第53回演奏会

宙^{そら}にひびく 琵琶の歌



平成29年11月11日(土)
大濠公園能楽堂

13:00 開場
13:30 開演

(福岡市中央区大濠公園1-5 ☎092-715-2155)

入場料：前売 2,000円／当日 2,500円

[チケット取扱]

◎チケットぴあ (Pコード 341806)

◎チケットポート 福岡パルコ店 (福岡PARCO本館5階)

☎03-5561-7714 (平日10:00～18:00)

◎スーパーチケット 地下鉄博多口店 (地下鉄博多駅博多口構内)

☎092-432-8766 (平日7:00～20:00＝日・祝9:00～19:00)

九州・沖縄から



主催：筑前琵琶保存会

後援：福岡県・福岡市・福岡市教育委員会

(公財) 福岡市文化芸術振興財団・福岡文化連盟

お問い合わせ：☎092-474-2973 (筑前琵琶保存会・青山)

そら 宙にひびく琵琶の歌

【第一部】

一 祇園精舎（『平家物語』より）

編曲 青山旭子

演奏 榎田亮介

祇園精舎の鐘の聲

諸行無常の響きあり……

誰もが聞いたことのある「平家物語」の冒頭。栄華を極めた平氏の滅亡は、花が次第に色あせていくようであった。中世の日本人の美意識である「無常」を琵琶の音色で奏でる。

二 千年の樹

詩 高橋睦郎 作曲 青山旭子

演奏 末永 恭子

高橋睦郎の詩集『旅にて』の一節。難解な詩のほんの入口、琵琶でどれ程近づけますか。どうぞお聴き下さい。

三 源平義経弓流し（『平家物語』より）

作曲 青山旭子

演奏 池崎 嶺雲

源平屋島の戦いにおいて、義経は自らの弓を海中に落としてしまった。義経は、自分の弓が張りの弱い弓であることを敵に悟られまいと命がけで拾い上げ、事なきを得た。

四 小督

作詞 柳 弥生 作曲 尾方 蝶嘉

演奏 柳 弥生

平家物語の中でも高倉帝と小督のロマンスを描いた段は、さながら琴と笛の音に彩られた源氏絵巻のようである。小督へ

の思い断ちがたい冷泉少将、清盛を恐れ姿を消した小督、恋に身をやつした高倉帝。月明かりを頼りに、側近の仲国は小督を探して嵯峨野の里をさまよう。

五 蛙（かわず）

作詞 讃州某 作曲 青山旭子

演奏 山中 和子

笑いは人間の優越感に伴う余裕を表すもので、人類共通の情緒といわれる。滑稽物というものが江戸時代中頃流行っていたという。蛙は蛇に捕まるが言葉巧みに騙し命拾いする。これは讃州某の物とも伝えられている。本来は三味線で歌われていたものを今回、琵琶曲に仕立て直した。

六 天岩戸

作詞 作曲 高木 青鳳

演奏 高木 青鳳

太陽の神・アマテラスが天岩屋に籠ってしまったことで、高天原には永遠の闇が訪れ、悪神が暴れ回っていた。困った八百万の神々はアマテラスを何とか外に連れ出そうと一計を講じ、一芝居打つことに。長鳴鳥の声を合図に、イザ大芝居の幕が開く！高天原一の舞姫・アメノウズメの踊りのシーンを、高木独自の色付けで描きます。

【第二部】

七 那須与一（『平家物語』より）

編曲 嶺 旭蝶

演奏 江田 結南

源氏と平家、屋島での戦い。日没近くな

った頃、海上より平家方の舟が一艘近づいてきた。見ると女官が扇を広げている。掲げられた扇の的を射てみようというのである。汀に陣を構える源氏の大將源義経はこの大役を若き那須与一に託す。与一は心を鎮め鎗矢を番えた。

八 座頭市（勝新太郎「座頭市」より）

琵琶編曲 青山旭子

演奏 井上 忠博

1、2年前にカラオケ店で演奏者・井上が歌う「座頭市」を聴き、これを琵琶にすることができないかと青山旭子が思いついて、井上のために曲をつけたもの。座頭市の超人の舞をどこまで表現できるか、井上忠博・69歳の挑戦。

九 巖流島の決闘

作詞 平田 汲月 作曲 嶺 旭蝶

演奏 高倉 青香

剣豪宮本武蔵と佐々木小次郎は、舟島にて決闘を行うことになった。遅れて到着した武蔵に対し小次郎は苛立ちを隠せない。僅かな隙をついて振り下ろされた武蔵の木剣が見事小次郎に命中する。以来この島は巖流島と呼ばれるようになった。

十 羅生門

原典 河竹黙阿弥「戻橋」
詞曲 尾方 蝶嘉

演奏 尾方 蝶嘉

時は平安。魍魎魍魎の存在が固く信じられ、闇が闇であった時代。大江山で酒呑童子を討ち取った源頼光の郎党・四天王のひとり渡辺源次綱は、ある夜、鬼が出ると言われる羅生門へさしかかり、い出

会ったのは……！春の都の風情から鬼神・茨木童子との戦い、その鬼の腕を切り落とす場面を描く。

十一 壇ノ浦（『平家物語』より）

編曲 青山旭子

演奏 木村嶺魔

元暦2（1185）年3月24日。源平の命運を賭けた戦いの火蓋が、長門国・壇ノ浦で切つて落とされる。天を衝く関の聲、海上を埋め尽くした両軍の船は潮に揉まれ、戦いは熾烈を極めたが、やがて潮の流れが変わると、戦況は源氏方へ有利に傾く。二位の尼はこの状況に覚悟を決め、幼い安徳天皇を抱いて海中へ身を投げた。

十二 松原桜

原作 土居善胤「花かげの物語」
作詞 曲 寺田 蝶美

演奏 寺田 蝶美 大鼓 白坂 保行

昭和59年3月福岡市南区松原にて。10日、道路拡幅工事のため一本の桜の木が伐採された。残りの木も次々に伐採予定であった。11日早朝、土居善胤氏はせめて今年の開花までは伐採延期を願う短歌を桜の幹に結びつけた。短歌はすぐに道行く人々の目にするところとなり、同調するたくさんの短歌が加わっていった。時の福岡市長進藤一馬氏も花守り（市長）宛のこの短歌に香瑞麻の名で密かに返歌していた。桜への思いが溢れる人々による不思議な力が集まって遂に工事は中止へと導かれていく。